

財団委員会アワー

●国際ロータリー第 2680 地区 ロータリー財団委員会

ロータリーカード推進小委員会委員 春木英行様



11月はロータリー財団月間ですので、世界でよいことをする為のポリオプラス・ロータリーカード・資金推進合同財団寄付促進プロジェクトと題しまして、財団のこと、また寄付についてのこと、そしてポリオについてのお話しをさせていただきます。

毎年度、地区では、各寄付金に対する目標額が設定されています。本年度では、一人当たり年次基金への寄付金は160ドル、ポリオプラス基金は一人当たり40ドルという数字です。しかし、これまでは目標額に対してほとんどが未達成となっており、財団の寄付額は、非常に厳しい状況が続いています。地区としては、財団への寄付額の低下と、それに伴う7つの重点分野の将来を危惧する状況が続いています。

現在、そういった状況を打開し、何とか士気を高めることができなかと考えており、それが、最優先課題だと捉えています。

*ロータリー財団が管理する寄付金について

寄付年度ごとに管理され、3年後に財団プログラムの原資となる年次基金、寄付の元金には手を付けずに、投資によって得られた運用益のみが財団プログラムの原資となる恒久基金、ポリオ撲滅活動を支援するためのポリオプラス基金、予め指定されたプログラムのみに使われる使途指定基金があります。

*寄付がその後どのように活用されているか

年次基金は寄付の3年後の年度に、財団プログラムの原資として戻ってきます。本年度に使える資金は、2020-21年度の高瀬ガバナーの年度の寄付金であるということです。

本年度に使える資金の内訳については、資金全体から5%の財団管理運営費を控除し、残りの50%、すなわち寄付額の47.5%を地区財団活動資金(DDF)、残りの47.5%を国際財団活動資金(WF)としてとして分配されるシステムになっています。また、地区へ分配された資金は、50%を上限に地区補助金として分配され、その他はグローバル補助金や災害支援金等として寄贈する資金として分配されます。前年度に使いきれなかったDDFの繰越金は、グローバル補助金や災害支援金等に加算されます。これらは、いわゆるシェアシステムと呼ばれる分配方式です。

*寄付資金を管理するロータリー財団について

資金の活用方法やプログラムの内容、組織のガバナンスや透明性などが高く評価されています。

特に5%の運営管理費でプログラムを実現されていることが、高評価の一因となっており、慈善団体の評価を行う、アメリカのチャリティーナビゲーターによる格付けでは、15年連続で4つ星の最高評価を獲得しています。今年度、ロータリー財団管理委員会は、これまでの最高額となる5億ドル(約700億円)という、野心的な寄付目標額を設定しました。目標の5億

ドルの内訳はこのようになります。

年次基金 1億5000万ドル

恒久基金 1億4000万ドル

使途指定基金 6,000万ドル

ポリオプラス基金 5,000万ドル

そして、ロータリーがポリオ基金5,000万ドルを達成した場合に上乘せされる、ビルゲイツ財団からの1億ドルとなります。

5億ドルの寄付を実現するためには、全てのロータリアンとローターアクターのご協力が必要です。現状、財団への寄付は大口寄付に頼っている部分があると言われています。大口寄付は、大変素晴らしいことですが、それよりも、少しでも寄付をしようと思いをもちたロータリアンの裾野を広げることが最も重要だと思います。

*地区の寄付状況について

昨年度、1名あたり寄付目標額の160ドルを達成したクラブは表のとおりです。

一番寄付額の多かったクラブは、三田RCの1名あたり1,173ドルとなっています。次いで、神戸西神RC、姫路RCと続き、全部で16クラブとなっています。

*ポリオについて

ポリオには5つの特徴があります。

1. 予防接種でウイルス感染を防ぐことができる。
2. 感染期間は非持続的。
3. 感染経路は感染者とその排泄物のみ。
4. 自然界で生存し続けるには限界がある。
5. 人が唯一の宿主 ということです。

ポリオは五つの特徴により、ワクチンで予防が可能です。そして、ワクチン接種でしか防ぐことはできません。ポリオの感染源は宿主である人間です。排泄された糞便にウイルスが含まれ、そのウイルスがまた、他の人間の体内に侵入し、感染するということになります。もう何度も言われ続けていることですが、この世からポリオを撲滅するためには、子どもたちにワクチンを接種するしかないということです。

*ポリオプラス

ポリオプラスは、ポリオに加えて、はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風を共に根絶していこうという活動となっています。また、多額の資金が投入され、25億人以上の子供に予防接種を行うなどの大きな成果もあげています。

*現在のポリオの現状

2021年まで野生型ポリオウイルスによる感染が続いているのはアフガニスタン、パキスタンの2カ国でしたが、残念ながら22年にはアフリカ南部のマラウイに続き、モザンビークでも約30年ぶりに感染者の報告があり、一時、30症例にまで増えていました。幸い、23年8月現在、世界で7症例まで減少している状況となっています。もし、世界からポリオが根絶された時、その根絶によってもたらされる恩恵は

1. ポリオによって一生涯苦しむ子供がいなくなります。これは、我々ロータリアンの一番の願いであります。
2. 低所得国で40億ドルから50億ドルの経費を削減することができます。

3. ポリオプラスで構築したインフラを他の疾病対策にまわすことができます。

* ポリオプラス基金

年間一人あたり40ドルという目標額が設定されています。昨年度の目標額を達成したクラブは神崎RC以下、全部で22のクラブが目標を達成していただいています。

ポリオ根絶まで「あと少し」となっておりまいました。しかしながら根絶を迎えるまでは、情勢不安や地理的な問題など、様々な障壁があり、今後も毎年多額の資金が必要です。さらに、気候変動等による災害なども含めると、まだまだ予断を許さない状況でもあります。

つきましては、多くの会員様に「ポリオプラス・ソサエティ」にご参加頂きますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。ポリオプラス・ソサエティとは、「ポリオプラス」に毎年100ドルの寄付を約束してくださる会員を認証するプログラムです。すでに多くの国々の会員が参加されており、申込みに関しては、事務局より地区へお申し込みをお願いします。

最後になりましたが、ハマスがイスラエルに攻撃をし、連日ニュースやインターネット上では、目を覆いたくなる様な映像が飛び込んで来て心が痛みます。ガザ地区の子ども達には心を寄せることしかできませんが、アフガニスタンの子ども達には手をさしのべる事ができます。是非ともポリオプラスソサエティにご参加頂き、子ども達に手をさしのべてあげて下さい。